



夏ですね。園庭の木で、セミが元気に鳴いています。子ども達も、負けなくらいおおきな笑い声を上げて元気いっぱいです。第5回目も私、吉村が「笑顔」と題して書いてみました。お付き合いください。

さて、皆さんは普段「笑う」ことってどれくらいありますか？例えば、朝起きて朝日を浴びた時、美味しいごはんを食べた時、お子さんの思いがけない言動に出会った時など、ふとした瞬間、笑顔になれると嬉しいですね。もしかしたら、お家と職場の往復で黙々と業務をこ

なしている方は、笑う機会が少なくなっているかもしれません。そんな時こそ、子どもたちに笑いかけてみてください。きっと皆さんの心を笑顔にしてくれます。

笑顔に関する二つのエピソードを紹介させてください。一つ目は、私の事です。以前、当時、高校一年生の娘のことで、おおきな木と契約している臨床心理士の豊嶋さんにお世話になったことがあります。私は、娘の学校のことで行き詰まり八方塞がりになっていました。どうしたらいいのだろうと、私の心は、元気がありませんでした。毎日毎日、悩んでいた時「娘さんの笑顔がバロメーターですよ。笑って目の前にいてくれるなら大丈夫ですよ。」の一言にとても救われました。それから「笑って目の前にいてくれるならいいや！」と思えるようになり、少しずつ少しずつ道が開けてきました。二つ目は、そんな時に会った児童精神科医の佐々木正美先生の著書。そこには、「子どもを幸せにするのなんてとても簡単なことですよ。親が笑顔ならそれだけで子どもは幸せなのです。自分が親を幸せにしたと思って自信たっぷりに育っていくのです。」佐々木先生の言葉を読み、娘を幸せにするために、わたしも笑顔でいよう！と思いました。

おおきな木では、日々、子ども達の発する言葉や仕草に、目を向け、耳を傾け、「笑顔」でそれを受け止めることを大切にしています。子ども達の「できたー、やったー」には「嬉しいね!」、「痛い」には「痛かったね」、「欲しい」には「そうだね、欲しいよね。貸してほしいよね。」と、まず、必ず子ども達の気持ちを受け止めるようにしています。そうすることで子ども達も、「あっ！わかってきているんだな」という気持ちが芽生え、それが信頼関係に繋がっていきます。わたし達の笑顔で、子ども達の心が幸せでいっぱいになってくれることが、目に見えてわかり、なにより嬉しいです。

子どもの笑顔は、どんなものにも勝ります。疲れていても、辛くても、悲しくても、笑顔を見ただけでパワーがでて、みんなを笑顔にしてくれます。そして、子どもも幸せを感じてくれるなんて、本当に素敵ですよ。笑顔の繋がり、これからも一緒につくっていきましょう。